

氏名	高橋 幸治
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 1837号
学位授与の日付	平成11年3月25日
学位授与の要件	医学研究科内科系神経内科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Increase of Cytochrome c Oxidase Negative Fibers in Rimmed Vacuole Myopathy with Inflammatory Changes (炎症性変化を伴ったrimmed vacuole myopathyにおけるチトクロームc酸化酵素活性欠損線維の増加)
論文審査委員	教授 黒田 重利 教授 小川 紀雄 教授 赤木 忠厚

学位論文内容の要旨

Rimmed vacuole myopathy (RVM) におけるチトクローム c 酸化酵素 (CCO) 活性欠損の重要性については十分に知られていない。CCO 活性欠損線維 (CCO(-)F) の頻度について、封入体筋炎 (IBM) 2 症例と炎症を伴わない RVM 2 症例、つまり眼咽頭遠位型ミオパチー (OPDM) 例と rimmed vacuole を伴う遠位型ミオパチー (DMRV) 例で比較検討した。CCO(-)F の頻度は病期 10 年の definite IBM 例で 6.9%、病期 1 年の possible IBM 例で 0.3%、病期 11 年の OPDM 例で 1.3%、病期 2 年の DMRV 例で 0.1%であった。CCO(-)F の頻度は病期の進行とともに増加し、その傾向は炎症を伴わない RVM より炎症を伴う RVM つまり IBM で強かった。この所見は IBM と炎症を伴わない RVM を筋病理学的に鑑別する際、重要な情報となる可能性がある。

論文審査結果の要旨

本研究は、チトクロームc酸化酵素活性欠損線維 (CCO(-)F)の頻度について、封入体筋炎 (IBM) の 2 例と炎症を伴わない 2 例を比較、研究したものである。CCO(-)Fの頻度はIBM・病期 10 年の症例で6.9%、病期1年例で0.3%であり、眼咽頭遠位型ミオパチー・病期 11 年例で 1.3%、病期 2 年の rimmed vacuole(RV)を伴う遠位型ミオパチーで0.1%であった。これはRVを示すミオパチー (RVM)において、CCO(-)Fの頻度は病期の進行とともに増加し、IBMが炎症を伴わないRVMより強いことを示している。これは筋生検でIBMと炎症を伴わないRVMの鑑別に有用であることを明らかにした。これらの成果はミオパチーの筋生検の診断的意義に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。